



令和8年7月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

下田市白浜の漁業者によるカジメ移植活動

平成29年から令和7年まで続いた黒潮大蛇行の影響で、伊豆半島沿岸ではカジメの藻場が衰退し、アワビ等の磯根漁業に大きな影響が出ています。このような状況の中、当分場は地域の漁業者等と連携し、藻場再生に向けたカジメ移植に取り組んでいます。その中で、下田市白浜地区の白浜漁業管理運営委員会で行われたカジメ移植とその後の状況について紹介します。

令和6年、伊豆分場が提供したカジメ種苗を、同委員会が白浜漁港に設置した食害防除カゴの中に移植しました。このカゴは、海藻を食べる魚類の食害を防ぐためのものです。

カゴの中で大きく生長したカジメは令和7年秋には成熟し、数か月後には、食害防除カゴの外で小さなカジメの幼体が確認されました。これは、成熟したカジメから遊走子（陸上の植物

の種のようなもの）が放出され、自然に新たなカジメが育っていることを意味しており、藻場回復に向けた着実な一歩です。

もちろん、カゴの外のカジメには魚類による食害の痕も見られますが、現在もこれらのカジメは生残し、成長を続けています。

今後、これらのカジメが核となる藻場になることを期待しています。



食害防除カゴ



カゴの外で生育するカジメ幼体

下田市内の園児が分場を見学

6月16日、下田市立認定こども園の5歳児38名が分場の見学に訪れました。

当日は、子供達に地元の海を知ってほしい、大人になっても今日の体験を覚えてほしいという願いを込めて体験プログラムを用意。子供達は下田の海を見る・聴く・嗅ぐ・触るを体験しました。

貝殻を耳に当てた時の音を聞いたり、乾燥したテングサのおいを嗅いだり、形成用の樽内で踏み込んだりと、子供達はいずれも最初はおっかなびっくりな様子でしたが、時間が経つにつれて分場での体験を楽しんでくれました。



左：様々な形の貝を耳に当て音を聴く様子、右：乾燥した天草のおいを嗅ぐ様子

マダイ稚魚の中間育成が始まる

今年も、伊豆半島の3か所でマダイ放流用稚魚の中間育成が始まりました。伊豆分場管内では6月9日に西伊豆町の田子漁港、6月10、11日に熱海市の網代漁港で沖出しが行われ、港まで活魚トラックで運ばれた稚魚を、バケツリレーで海上の生簀に収容しました。沖出し時の稚魚は体長約20mm、体重約0.3gで、体長60mm程度まで育てられた後、7月中旬から下旬に伊豆半島の各地に放流される予定です。



7月の予定 ●潜水調査（白浜、仁科ほか） ●キンメダイ捕獲調査 ●研究要望調査（管内） ●キンメダイ資源評価担当者検討会（1日）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。